

1990年 身近な生きもの 調査

●調査結果概要版●

「身近な生きもの調査」にご協力いただき、ありがとうございました。みなさんから寄せられた多くの調査票によって、全国の「身近な自然」の様子が明らかになりました。詳しい分析には、いましばらく時間がかかりますが、これまでにわかったおもな点について、ご紹介します。

環境庁



1 都市周辺で見られなくなった動植物

オオヨシキリ、ヒバリ、在来タンポポなどは、都市周辺ではだんだん見られなくなってきたようです。自然の河川敷や草原、畑などが少なくなってきたことの表れでしょう。

2 都市内部でも見られるようになった動植物

自然の崖地で巣作りするカワセミや、山間の岩場などで巣作りするイワツバメが、都市の内部でも見られるようになってきました。本来の生息地が開発されたのでしょうか。

こんなことがわかりました。

3 分布をひろげている外来種

アオマツムシとオオクチバス（ブラックバス）の2種類の外来種は、ともにその分布域を全国にひろげているようです。他の在来の生物への影響が心配です。

4 身近な自然が豊かに残る都市

身近な自然が、中心部にも豊かに残っている都市もありました。人の生活と自然とが調和したうるおいのある街として、これからも身近な自然を大切にしていきたいものです。



●調査メッシュ
右の図は、48種類の生きもののうち一つでも「見つかった」という報告のあったメッシュをすべて表したものです。全国で64,902メッシュが調べられました。



■都道府県別参加者数

都道府県	個人	団体	合計
北海道	565	4,710	5,275
青森	179	1,635	1,814
岩手	257	2,074	2,331
宮城	224	1,431	1,655
秋田	280	750	1,030
山形	204	1,154	1,358
福島	302	1,334	1,636
茨城	406	4,048	4,454
栃木	419	4,295	4,714
群馬	361	3,050	3,411
埼玉	921	6,665	7,586
千葉	1,010	8,007	9,017
東京	1,548	9,296	10,844
神奈川	1,661	11,500	13,161
新潟	435	1,743	2,178
富山	169	1,140	1,309
石川	210	1,798	2,008
福井	118	417	535
山梨	137	1,839	1,976
長野	619	2,408	3,027
岐阜	335	1,164	1,499
静岡	559	3,182	3,741
愛知	813	2,585	3,398
三重	285	1,136	1,421
滋賀	196	1,680	1,876
京都	295	1,467	1,762
大阪	485	3,739	4,224
兵庫	458	2,241	2,699
奈良	188	1,416	1,584
和歌山	95	465	560
鳥取	91	804	895
島根	196	1,625	1,821
岡山	246	1,986	2,232
広島	248	1,843	2,091
山口	194	561	755
徳島	125	502	627
香川	194	2,476	2,670
愛媛	154	1,050	1,204
高知	105	750	855
福岡	469	1,658	2,127
佐賀	103	885	988
長崎	162	1,076	1,238
熊本	129	749	878
大分	121	380	501
宮崎	103	673	776
鹿児島	139	1,122	1,261
沖縄	55	279	334
合計	16,558	106,788	123,346

●参加者数
個人、団体をあわせて123,346名の方々に参加していただきました。さらに、NTTや財新宗連、西友、九州電力などをつうじて多数の参加がありました。



みどりのたよりNo.2

環境庁自然保護局計画課
自然環境調査室
〒100 東京都千代田区豊が関1-2-2
☎03-3591-3228

1 都市周辺で見られなくなった動植物



前回(1984年) [オオヨシキリ]
今回(1990年)
 ヨシ原のある湿原や水辺で見られるオオヨシキリ。今回の調査でも、川に沿って多くの確認情報が寄せられました。河川敷などで大きな声で鳴いている姿を見つけた方も多かったのではないのでしょうか。ただ、前回(1984)の調査結果と比べると、所々で今回は情報が寄せられなかった場所があります。
 大阪や京都周辺の場合、淀川や木津川、恩智川沿いにそうした場所が見られます。ヨシ原などが残る、自然の状態を保った河川敷などの減少によるものと思われる

1:300,000

2 都市内部でも見られるようになった動植物



前回(1984年)
今回(1990年)
【カワセミ】
 「清流の宝石」ともいわれるカワセミが、意外に多く都市の内部でも確認されました。こうした傾向があることはかねてから話題になっていましたが、今回の調査でその様子をはっきりとつかむことができました。
 カワセミはもともと郊外の丘陵地などにある自然の産地に巣作りするのですが、そうした場所が開発されたために、やむなく都市内に残る産地、たとえば大きなゴミ捨て穴や狭い水路の壁などで巣作りするようになったと考えられます。また、都市内の河川や池の水質が良くなって、カワセミの食物である小魚などが増えたことも大きな要因でしょう。

1:300,000

1990年 身近な生きもの調査

みどりのたより No.2 調査結果概要版

3 分布をひろげている外来種

外来種の一つ、アオマツムシの調査結果を、これまでにわかってきた生息確認地点と比べてみると、全国的にその分布域がひろがっている様子がわかりました。一般に帰化動物のひろがりには在来生物に影響を与え、在来種の減少などが心配されますが、アオマツムシの場合、競合とまではいかないものの生活域の類似した種(ウマオイの一種)との関係や果樹(とくにカキ)への被害が心配されます。



【アオマツムシ】



■アオマツムシの生息確認地点 (1988年現在)

4 身近な自然が豊かに残る都市

【金沢】
 前回の調査結果と比べても大きな変化はなく、現在でも「身近な自然」にかこまれた都市もありました。そのような都市の一つとして、金沢の例をご紹介します。在来タンポポ、ゲンジボタル、ヒバリが、今回の調査でも中心部で数多く確認されています。
 在来の植物が生育し、ゲンジボタルが見られる清流とヒバリがさえる広い草原などが身近に残る街。人間生活と自然の調和を考えると、その一例として注目したい都市といえるでしょう。



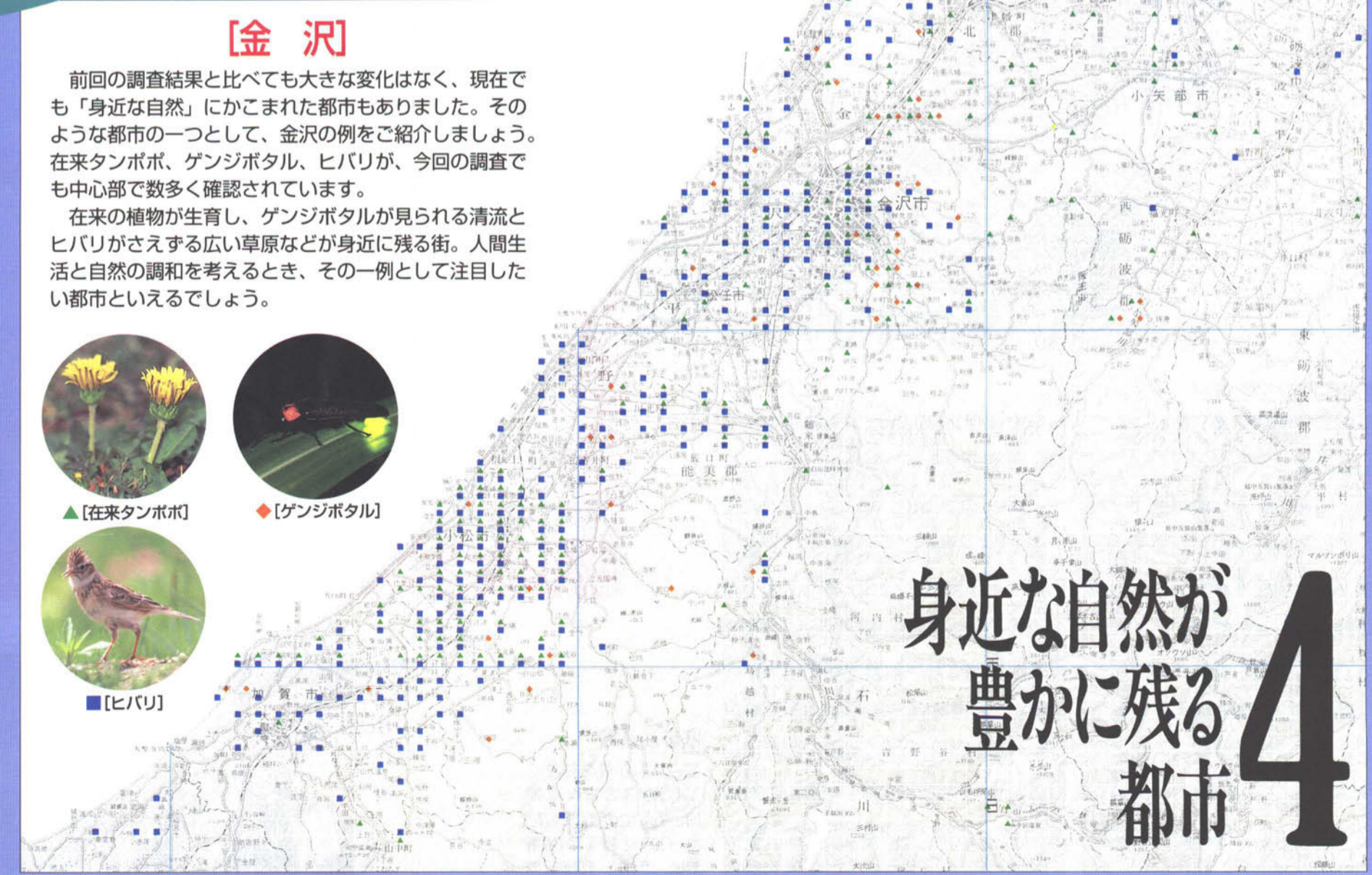
▲【在来タンポポ】



◆【ゲンジボタル】



■【ヒバリ】



1:300,000

この地図は、建設省国土地理院長の承認を得て、同院発行の20万分1地勢図を複製したものである。(承認番号)平3総復第41号